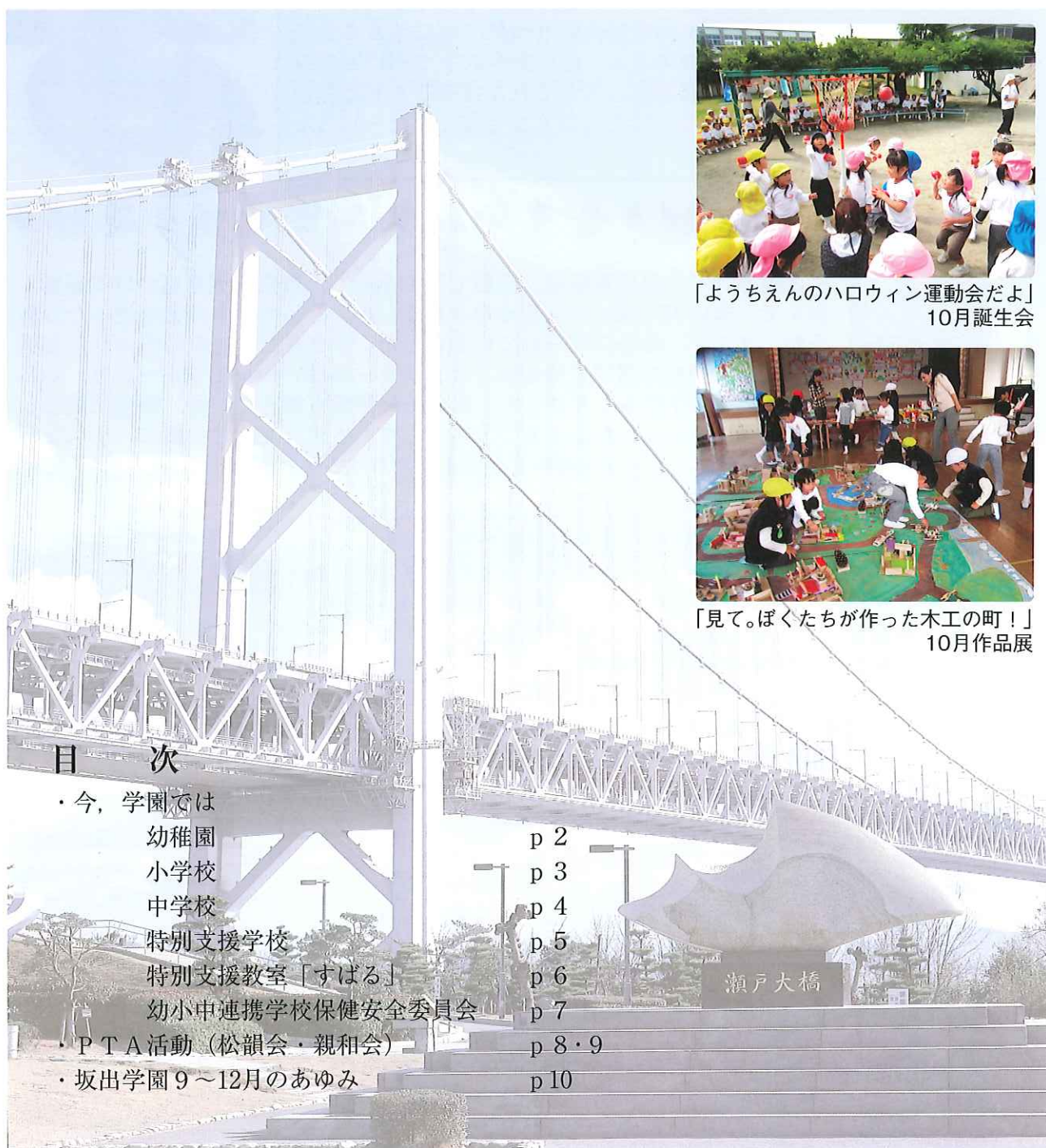


香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第40号

2011.12



「ようちえんのハロウィン運動会だよ」  
10月誕生会



「見て。ぼくたちが作った木工の町！」  
10月作品展

## 目次

- ・今、学園では
  - 幼稚園 p 2
  - 小学校 p 3
  - 中学校 p 4
  - 特別支援学校 p 5
  - 特別支援教室「すばる」 p 6
  - 幼小中連携学校保健安全委員会 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園9～12月のあゆみ p 10



# 秋に親しむ子どもたち



同じ季節の中でも様々な顔を見せてくれる秋。子どもたちは、秋のおとずれから、深まりゆく秋まで、それぞれの秋を満喫しました。幼稚園や幼稚園の外で秋を感じた子どもたちの様子を紹介します。

## 東大浜公園で秋探し



秋のおとずれを感じ始めた10月上旬、みんなで東大浜公園に秋見つけにでかけました。公園には、どんぐりやまつぼっくり、幼稚園ではなかなか見ない秋の虫たちを見つけて、子どもたちは驚きと喜びの表情でいっぱいでした。また、たくさんの落ち葉の上を歩いて、その音や感触を味わってもしました。芝生の上では、製作できる場所もつくり、見つけたどんぐりや落ち葉を画用紙に貼りつけて冠にすることも楽しみました。気持ちのよい秋空のもと、広い芝生の上でかけっこをしたり、リレーをしたり木々の間を使ってかくれんぼをしたりと存分に心と身体を動かして遊びました。秋を心ゆくまで楽しんだ一日となりました。



## 幼稚園で秋を満喫



**<3歳児>**年少児の黄組は、園庭で紫や赤の実、黄色の実を見つけて感動！喜んで、木の実を採ったり集めたりしました。そして、木の実を使ったお菓子が、どんどん砂場に作られていきました。子どもたちはその作られたお菓子をお盆にのせて園庭に出かけ「カップケーキはいかがですか〜」と、かわいらしい売り子にもなりました。お菓子の種類も増えていき、秋色に染まった落ち葉にくるまれた団子もできあがっています。友達と一緒に、小さな発見をしたり、イメージを膨らませて遊んだりすることが何より嬉しい様子です。

**<4歳児>**年中児の赤組は、紙粘土と東大浜公園で拾ったどんぐりやまつぼっくり、小枝を使ってキラキラトロフィーを作りました。紙粘土の感触を楽しみながら、トロフィーのデザインにこだわったり、どんぐりや小枝を思い思いに飾ったりして作り上げていきます。仕上げに金色や銀色のスプレーを自分たちで吹きかけると、「わ〜すごい！」と思わず歓声をあげる子どもたち。一瞬のうちにキラキラ色に変わる様子に感動です。見つけた秋からこんな素敵なものができるなんて！自分だけのトロフィーが心の中でも輝くものになりました。



**<5歳児>**年長児の青組は、木工遊びの中で秋と親しみました。さわやかな秋空のもと、園庭に響く「カンカン、トントン、ギコギコ…」という音。板に釘を打ったり、のこぎりで切ったりと、初めて出会う道具を手に自分の力に挑戦する姿がたくさんありました。作られていくのは、釘を打ってできる『どんぐりコース』、板を組み合わせてできる『どんぐりのおうち』などです。『どんぐりコース』は釘を何本も打つ中で「ここ持ってて」と友達と協力したり、自分のコースだけではなく友達のコースで遊ぶ中で工夫を見つけたりしていました。『どんぐりのおうち』は本物さながらで、台所、居間、お風呂やトイレにいたるまで細かく作られ、その中でどんぐりを使ったごっこ遊びが広がり、深まっていきました。

## 知の更新をめざした「思考力」の育成（3年次）

### —思考様式を共有化するユニバーサルデザインの授業づくり—

附属坂出小学校では、考える術である思考様式を共有化する授業づくりを通して、子どもの認識が新たになるような「思考力」を育成しようと試みています。本年度は、自力解決の前後の見通しと振り返りの場において、特別支援教育の方略を取り入れたユニバーサルデザインの働きかけを行うことによりテーマに迫ろうと考えました。

以下に、実践しました授業をご紹介します。

#### ●●● 研究授業 ●●●

### 1年 体育科「みんなで たのしく とびっこあそび」

やまじ あきよ  
山路 晃代

小学校低学年の体育では、全ての運動の基礎となる動きを運動遊びを通して、学習していきます。本学習は、学習指導要領の中学年「走・跳の運動」につながる第一歩の学習です。片足で踏み切ったり、両足で踏み切ったりする運動や、リズムよく跳ぶという経験が、中学年で学習する、「走り幅跳び」「走り高跳び」「ハードル走」へとつながります。

本時は前時につくったリズムよく走れるコースをさらに楽しく走れるコースに修正する学習を行いました。まずはじめに、教師が、輪の配置や輪の間隔をそろえたコースと、輪の配置は同じだけれど輪の間隔がばらばらのコースの2コースを用意し、跳び比べさせました。そして、この2つのコースの「何が違うか」を発表させ、2つのコースの輪の間隔の長さや幅に目を向けることができました。このようなことから、リズムよく走ることを見つけ、自分たちのコースにも、輪の間隔が長くなったり、広くなったりしているところはないのかを見つけ、修正していききました。

修正したコースを実際に跳び楽しさを味わった後、振り返る際には間隔を言葉で表したり、動作で表したりすることは難しいため、はっきりと視覚でとらえられるような教材を用意しました。それが、算数の授業でも使っている「大型おはじき」です。この大型おはじきをコースに並べることで、パーの間の長さは「おはじきの6つ分」ケンの長さは、「おはじきの3つ分」と視覚にも分かりやすく、数値でも表現しやすくしました。このようにして自分たちの修正したコースを振り返ることで、思考様式「間の長さ」「間のはば」のよさを共有化することができました。（振り返りの場面でのユニバーサルデザインの働きかけ）



【大型おはじきで自分たちのコースを見直す】

### 3年 算数科「三角形を調べよう —三角形と角—」

やぶうち まさあき  
藪内 雅昭

角の大きさは「角をつくる2つの辺の開き具合」とされていますが、子どもたちにとっては、そのとらえが難しいものです。開き具合というのは、いったいどの部分を見ればよいのかが分からず、つい「辺が長いと角も大きい」と誤解してしまいます。そこで、角の大きさ比べを行うことで、角について概念を深める学習を行いました。

2つの角の大きさの比べ方には、いくつか方法があります。①角を切り取って直接重ねる方法、②1つの角を何かに写し取り、もう1つの角と重ねる方法、③任意の小さな角のいくつ分で比べる方法などです。4年生になると、分度器という便利な道具を使って測定するようになりますが、今回の授業では、②の写し取る方法で行いました。

写し取る際に、「カクカク君」という道具を用いました。これは、角にあてがうことで、簡単に大きさを写し取ることができる道具です。辺の開き具合は黄色い部分で表され、子どもたちはその色と形状から「パイナップルの大きさをみると、角の大きさも分かる」ととらえるようになりました。（見通しの場面でのユニバーサルデザインの働きかけ）



【カクカク君で写し取る】

そして、辺の長さの違いがある様々な角を比べました。辺が長いと角の大きさも大きいと考えていた子どもたちは、比較する活動を通じて、「角の大きさは辺の長さには関係がない」ということに気付いていきます。授業の最後には、辺の長さには大きな違い（2mと3cm）がある角で大きさ比べをしました。授業の初めには、「辺が長いと角も大きい」と考えていた子どもたちも、その時には「比べてみないと分からない」という意見になり、実際に比べてみました。すると、辺が短い方の角の大きさが大きく、改めて辺の開き具合が大切だと確認することができました。



【カクカク君の使い方を考える】



【辺の長さが極端に違う角】

## 第1回 あじさいフェスティバル（文化祭）が開催されました！

去る11月3日に、**あ**たらしい **じ**ゆうときりつの **さ**わやかな **い**ばしょ のコンセプトのもと、附属坂出中学校の新しい文化の祭典が幕を開けました。午前中には**総合学習CAN発表会・シャトル学習成果発表会**、午後からは**文化部発表・各学年団発表**が行われ、文化の日を満喫しました。

### 【最優秀研究 青雲賞】

#### 「映画音楽を調べ、生かして作曲をしよう」

3年岩井さん・2年玉岡さん・1年鎌田さん  
映画音楽の特徴を調べ、本の読み聞かせにふさわしい曲づくりに取り組んだ。  
実際に幼稚園で園児に読み聞かせを行い、研究成果を検証することができた。



### 【優秀研究 CAN賞】

「未来の航空機を考えよう」  
「昔話やグリム童話の裏側を調べよう！！」  
「洋画と邦画」  
「睡眠学習中の時間を利用しよう」  
「音楽の試聴が、知的能力に与える影響について」  
「速読の研究」

3年佐藤くん・2年永濱くん・1年根角くん  
3年下舞さん・2年氏家さん・1年増田さん  
3年中村さん・2年栗井くん・1年有木さん  
3年阿河さん・2年蔵谷くん・1年片山さん  
3年近藤くん・2年篠原さん・1年茨さん  
3年竿尾さん・2年溝渕さん・1年戸倉さん

### 【シャトル学習特設講座 部門賞】

#### チームマネジメント賞 「絶対音感と音痴」

3年福家さん・2年西村さん・1年久保さん

#### データ収集賞 「香川県の震災前後の移動手段について」

3年西内くん・2年西本くん・1年西内くん

#### 「ヒット商品から読み取る時代の流れ」

3年篠原くん・2年山家さん・1年吉田くん

#### データ活用賞 「心理テストは当たるのか？」

3年大野さん・2年浜野さん・1年山家さん

#### 発信賞 「JR四国に必要な車両を考える」

3年浪越くん・2年宮嶋くん・1年山田くん

他にもインターネットで発信し1,500件もアクセスがあった「シフォンケーキのレシピを考えよう」など、10クラスターの研究に研究奨励賞が贈られました。



### シャトル学習成果発表



「ぶりを食べると頭が良くなる？」他

### 各学年団発表



「3年団有志による合唱」他

### 個人発表 ピアノとオーガエによるアンサンブル



「霧のむこうに」作曲：3年岩井美沙さん

第16回  
研究発表会

子どもの主体的な社会参加をめざして

～ポジティブな人間関係をはぐくむことを視点とした授業づくり～

研究テーマについて

子どもの主体的な社会参加を実現するために、我々は人間関係形成能力に注目し、それをはぐくんでいくための授業のあり方を探ってきました。研究発表会では、子どもたちが集団のなかで役割を担い、やり取りしながら課題に取り組む授業と、日々の授業実践から見出した授業づくりの手順やポイントを提案したいと考えています。

平成24年 1月21日(土)8:30~16:40  
会場：香川大学教育学部附属特別支援学校

タイムスケジュール

8:30-8:50	8:50-9:30	9:40-10:25	10:30-11:15	11:20-12:10	12:20-13:00	13:10-14:30	14:50-16:30	16:30-16:40	
受付	開会行事	全体提案	研究授業 I	公開授業 II	昼食 ポスター発表	話題提供	分科会	講演	閉会行事

研究・公開授業

主体的に子どもたちが活動する授業を公開します！

話題提供

「授業づくりのための手順及びポイント」

本校が授業づくりや改善に活用するために作成した「授業づくりのための手順及びポイント」をもとに、具体的な実践や活用の仕方等について研究部から提案を行います。

小学部



研究

ことば・かず 4グループ

「好きなものを伝えよう！」

友達同士のやり取りを中心に授業を進めています。アナウンサーなどの模擬体験をとおして、意欲的に自分の伝えたいことを表現します。



公開

ことば・かず 1グループ

「これなあに？～誕生会編～」

誕生会のストーリーの中で、身近な語句を学習します。指導者や友達とのやり取りの機会の中で、人とかかわる楽しさを経験していきます。

パワーアップタイム(課題別グルーピング)

中学部

パワーアップタイムとは、自分の思いや願いを集団のなかで実現するために、社会性やコミュニケーション能力を身に付けることをねらった各教科等を合わせた指導です。



研究

虹のクレヨングループ

「みんなに知らせよう」

身近な情報を取材しみんなに発信します。支援ツールを使って、分かりやすく伝える力を身に付けながら、すてきなアナウンサーをめざします。



公開

フラワーハイジグループ

「作って飾ろう～画用紙の花～」

制作活動をとおして、依頼や伝達など、やり取りの基本的な話型を学びます。仕上がった花は「すてきなね」「美しいね」という思いを添えて飾ります。



公開

スマイルグループ

「みんなで作ろう～ピザ編～」

大好きなピザ作りで、自分が使いたい材料を選択し、支援ツールを用いながら、友達や指導者に要求したり、依頼したりする力を身に付けます。

高等部



研究

職業科 高等部2組 Aグループ

「自分再発見！～3年生の現場実習に向けて～」

様々な情報を整理して自分の特性を知り、仕事について考えます。相手に自分の思いを伝え、話題を共有して話し合いを行うなかで、自分の進路について探っていきます。



公開

職業科 高等部1組 Aグループ

「好きな仕事、苦手な仕事」

自分の得意なこと、不得意なことを自己評価、他者評価しながら、数種類の業種の中から自分に向いている仕事、苦手な仕事を見つけていきます。

講演会

「児童生徒の力を引き出し、高める授業づくり-応用行動分析学から」

平澤 紀子先生(岐阜大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻 教授)

応用行動分析学がご専門で、行動面が気になる発達障がいのある子どもの支援法について研究をされています。また、授業づくりについても研究・実践をされています。

ポスター発表

もあります。

昼食の時間、  
パネルをご覧ください！

## 特別支援教室「すばる」での社会性育成指導事業

香川大学教育学部特別支援教室「すばる」では、学習指導事業として個別学習指導事業と社会性育成指導事業を推進しています。

本教室での活動の中核を担う個別学習指導事業では、LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群などの幼児児童生徒に対して一人ひとりの特性やニーズに応じた指導・支援を行っています。また、本教室における指導・支援が継続的に活かされるよう、学校や家庭と連携して子どもの教育実践に取り組んでいます。指導期間は、年度内で3つの期間に分かれており、いずれかの期間で週1回1時間、計10回の指導を実施しています。

社会性育成指導事業では、本教室に通う児童のうち、特に対人関係やコミュニケーション、社会的なルールの遵守など、社会的・対人的場面で困難を示す子どもたちを対象に小集団でのソーシャルスキル・トレーニング（以下SST）を実施しています。SSTとは、人間が社会で生きていくのに必要な技術を習得する練習のことです。多くの子どもは観察学習（周りの人の行動を見て、社会生活を送るために必要な行動の仕方を自然に身につけていく学習）により社会での行動の仕方（ソーシャルスキル）を身に付けていきます。しかし、発達障害がある子どもは、それらのスキルが自然に身に付いていなかったり、身に付いていてもうまく発揮できなかったりすることがあります。例えば、挨拶ができない、友だちと一緒に遊べない、人を傷つけることを平気で言うなどの問題を抱えていることがあります。これらの問題への支援として、集団活動への参加、対人関係・意思伝達力の向上、自己調整力の向上などを目的とし、適切な振舞い方を学習したり、実際の活動を通して練習したりする小集団でのSSTを実施しています。

今年度のSSTは、香川大学教育学部特別支援教育講座教授武藏博文先生の指導のもと、香川大学教育学部の学生と本教室スタッフにより運営・実践されています。対象児はすばるに通っている小学2年生から小学3年生までの7名（男児6名、女児1名）で、月1回1時間30分程度、9月から2月までの計7回実施されます。各セッションで「良い姿勢で話を聞こう」「上手に発表しよう」「あったか言葉を探そう」などのテーマを設定し、子どもたちは集団活動における話の聞き方、話し方、対人的なやりとりなどを学習しています。ゲームなどの楽しい活動を通して、実際に友だちと関わりながら学習したスキルを実践し、学校生活や日常生活場面でも行うことができることを目標に練習しています。

ソーシャルスキルを知識としてもっていても、実際場面では活用しにくい児童が多いのが現状です。小集団でのSSTは、ワークシートや絵カードで学習したソーシャルスキルに関する知識を、子ども同士の関わりの中で練習し発揮することができます。このような活動を通して、子どもたちの日常生活に少しでも役立つ実践を工夫していきたいと考えています。



## 子どもたちの健やかな成長を願って 学校保健安全委員会（幼小中連携）を開催しました。

附属坂出学園では、小・中学校にそれぞれ学校保健委員会を設置しています。主に学校における児童生徒の健康課題を取り上げ改善策について協議し、日々の健康づくりの推進に活かすことを目的に開催しています。健康に関する課題は、生涯を通して取り組んでいくものですが、幼児期から継続している課題も多く発達段階にあわせた取り組みが望まれています。そこで、2年前から幼・小・中の保護者を対象とした連携学校保健安全委員会を開催しています。今年度の様子を紹介してみます。

### 平成23年度議題 子どもの生活習慣をサポートしよう

#### —視力低下の原因を上手に回避できる方法を探ろう—

今年度は、視力低下について今の子どもたちの生活を振り返りながら課題を明らかにし学校園眼科医の久保賢倫先生をお迎えして、学校園や保護者ができることを探ってみました。幼小中の保護者の方が40名程度参加されました。内容は次のとおりです。

- ① 附属学園の子どもたちの視力の状況（視力測定結果より）  
視力が1.0未満の子ども割合が全国平均を上回り、特に小学校3・4年生から急激に増えています。（右図参照）  
（—が附属学園男子を表しています。女子も同じ傾向です）
- ② 視力低下につながる生活習慣（アンケート結果より）  
テレビの視聴や携帯ゲームやパソコンをする時間が増え、外遊びが少なくなっています。また、ゲームの使用開始年齢も低年齢化し、眼を酷使する生活環境になっています。
- ③ 学校眼科医（久保先生）と語る。  
保護者の方からの質問に答えていただきました。



両親ともに視力が悪いのですが、遺伝との関係はありますか？（幼稚園保護者）

ゲームやテレビの長時間の視聴が気になっています。どんなことに配慮したらいいですか？（小学校保護者）

近視のよい治療はありますか。コンタクトレンズの使用はどのように考えたら良いでしょうか？（中学校保護者）



遺伝要因が1～2割、環境要因が9～8割と言われています。特に現在の生活は、目を酷使する環境にあります。

子どもは、180分近くを見る作業（ゲームやパソコン）を続けると近視状態になります。ゲームは2時間でグレースーン、1時間程度がのぞましいです。ゲームは、携帯用でなく、大きな画面で、体を動かせる家族でできるものの方がいいですね。

点眼治療を行っていますが、すぐによくなるものはありません。やはり予防が大事です。コンタクトレンズは、自己管理ができるようになってから、眼科医と十分相談して品質の保障されているものを選びましょう。

日本では、失明原因の約13%が、強い近視です。今の子どもたちの60年後を考えた時、眼を酷使している今の生活環境を見直すことが大切だと考えます。以下のことを参考に、できることから始めてみませんか。

- ・ 戸外遊び（太陽にあたりながら）を勧める。  
近くを見る作業時間が長くても戸外での活動時間が長くなるほど近視になる割合は低くなる。
- ・ ゲームは2時間まで、大きい画面のものが望ましい。
- ・ 鉛筆の濃さは2B以上にし、書く時の手元が影にならないようにする。
- ・ 近視進行予防を目的にした眼鏡が開発されてきている。

詳細については、各校園の保健便りなどの報告をご覧ください。

## 幼稚園より

## ウェンディの会 ～大好評！園長先生の講話～

10月25日にウェンディの会を開催しました。

年に一度開催しているウェンディーの会ですが、今回は6月の参観日に大変好評だった藪添園長先生の「心を育てるコミュニケーション」に関する講話パートⅡを企画しました。

今回も前回と同じように参加者のみなさんからの質問に先生がお答えして下さる、という形でした。

臨床心理士でもいらっしゃる園長先生のお話は子育てに関するだけでなく、日ごろの人間関係を円滑にするちょっとした秘訣など専門家ならではの実践的なもので、もっと聞いていたいと思う楽しいものでした。

みなさんご参加くださりありがとうございました。今後ともPTA活動にご協力をお願いします。



## 坂出市PTAソフトボール大会 ～優勝しました！～

10月30日に坂出市PTAソフトボール大会が開催されました。

お父さんお母さんに参加いただいた幼稚園チームは経験者が多いこともあって、打ってよし、守ってよしのチームプレイで順調に勝ち進み、3試合全勝で優勝しました。

雨が降ったりやんだりのあいにくのお天気でしたが、先生やたくさんのお母さん、子どもたちの応援も試合を盛りあげ、笑顔いっぱいの日になったと思います。

選手のみなさんおつかれさまでした。応援に来て下さったみなさんもありがとうございました。今後ともPTA活動にご協力をお願いします。



## 小学校より

## 全附連PTA連合会PTA研修会第2回全国大会

10月14日（金）、15日（土）に全附連PTA連合会PTA研修会第2回全国大会が東京にて開催されました。初日の14日は木下晴弘様の基調講演と校種別の分科会があり、子育ての中で子どもの存在自体を認める事が大切であること、また校種別部会では様々な実体験を聞く事ができました。2日目の15日は乙武洋匡様の本講演①、藤原和博様の本講演②があり、教育現場での様々な取り組みなどが紹介され、大変参考になりました。2日間とも有意義な時間を過ごせましたし、そこで得た情報を少しでもお伝えできればと考えております。

## PTAソフトボール大会

10月30日（日）、坂出市PTAソフトボール大会が開催されました。附属坂出小学校からは2チームが出場し、Aチームは1勝1敗、Bチームは2敗で惜しくも決勝トーナメント出場は逃しました。その後の反省会には90名を超える方々にご参加をいただき、より一層の親睦を図る事ができました。来年以降も皆様のご参加をお待ちしております。





## 中学校より.....

### 土曜メンテナンス

10月1日（土）に、土曜メンテナンスとして中学校中庭の池の清掃活動を行いました。

参加を呼びかけたところ、多くの保護者の方にお集まりいただきました。特に1年生の保護者の方には多数参加いただき、池が見違えるほどきれいになりました。事前に野球部の協力もあり、短時間で作業を終えることが出来ました。

P T A活動へのご協力、本当にありがとうございました。



### 市P T Aソフトボール大会

10月30日（日）、あいにくの雨の中、市P T Aソフトボール大会が開催されました。

今年は1年生の保護者の積極的な参加により、中学校はA・B 2チーム参加することが出来ました。ご協力に感謝いたします。

A・B両チームともに初戦を突破し、最終的にAチームは優勝という、すばらしい成績を残しました。

参加者の中から「楽しかった〜!」との声も聞けて、スポーツにおける親睦会の目的を果たせたと胸をなでおろした次第です。

大会後の打ち上げも、幼小中合同で90名余りが一同に集まり大いに盛り上がりました。



### 【お知らせ】

12月11日（日） 中学校オープンスクールにて、P T A主催のティーパーティーを予定しています。たくさんの参加をお待ちしています。

## 特別支援学校より.....

### 香川県特別支援学校連絡協議会について

親和会会長 加賀 実



10月27日（木）、「香川県特別支援学校連絡協議会（以下9 P連）」の平成23年度第2回研修会が開催されました。

9 P連は香川県にある特別支援学校9校で組織され、障がい種別を越えて相互理解を深めることを目的に、事務局当番校が毎年交代で運営されています。

当日は、香川県内特別支援学校のP T A会長・親の会会長等P T A役員・各学校長等約100名の出席があり、午前中に二つの分科会、午後からは全体会が行われました。

第1分科会では、香川大学の坂井准教授により「ICTの導入と特別支援教育」と題し、特別支援教育における代替コミュニケーションのあり方や、スマートフォンやタブレットP Cを用いたソフトウェアの解説等が行われました。

第2分科会では、香川県中小企業同友会のご協力を得て、進路・就労についての情報交換会が行われました。

どちらの分科会も保護者にとって関心が高かったこともあり、活発な意見交換が行われました。

全体会では、「災害時の障がい者支援について」の内容で、8月に行われた「全国特別支援学校知的障害教育校研究大会」での、先の東日本大震災で実際に被災したP T A会長の体験談や、災害時のBCP（事業継続計画）等を元に、「災害時における対応と課題について」の報告と、坂井准教授からの災害時および災害に備える方法の提案がなされました。災害の少ないといわれる香川県ですが、災害に備えてP T Aでできることを考え、防災意識を高めることの必要性を再確認できました。

松韻会および他県の特別支援学校からの出席もあり、有意義な研修会をもつことができました。



全体会の様子



分科会の様子

運動会

坂出学園の秋期大運動会が9月17日に行われました。プログラムの最後は、恒例の生徒の創作によるマスメージョムです。今年は「LIFE～生きる～」のテーマのもと、I場：Sings of life～証～（1～3年生男子）、II場：Full of life～輝～（1～3年女子）、III場：All our lives～紡～（3年全員）の3部構成でした。3月11日、東北地方に莫大な被害をもたらした東日本大震災。その被災地の復興への願いを込め、「がんばろう日本」の旗の下、全生徒が一丸となって踊りきりました。



文化祭

11月3日文化の日に、文化祭が行われました。午前中は総合学習CANおよびシャトル学習の発表会でした。優秀クラスターの発表では、各クラスターが趣向を凝らしたプレゼンテーションを展開し、1年間の研究の成果を伝えました。午後は「第1回あじさいフェスティバル」と銘打って、文化部の発表、各学年の合唱、ピアノとオーボエのアンサンブル演奏などの新しい企画で進行しました。



中 学 校

辻野榮一先生の特別授業

10月17日、本校の卒業生で彫刻家の辻野榮一先生が附属坂出小学校にやってきました。辻野先生は、今秋、坂出市民美術館で「薫り立つ木刻の森」のテーマで彫刻展を開催されました。5年生が彫刻展に行き、辻野先生の作品で自分が気に入った作品をスケッチし、思い思いの色を付けてきました。

そのスケッチを見てもらいながら、豊かなイメージを大切にしたい絵のおもしろさや描き方のコツを教えてくださいました。

最後には、附属坂出小学校・中学校時代から絵が大好きだった辻野先輩から、経験をもとにした4つのアドバイスをいただきました。それは、「①人とのつながりを大切にすること」「②好きなことをとことん続けること」「③自分のやりたいことを言語化すること」「④やろうか、やめようか、と迷ったときはやる方を選ぶこと」です。肝に銘じたいものです。

授業終了後もスケッチブックにサインをねだる子どもたちがあふれていました。夢をもって進み、今度は君たちが後輩たちへのメッセージを伝えに附属坂出小学校へ戻ってきてください。附属坂出小学校はただいま99歳(白寿)です。



小 学 校

特別支援学校

盛況！ふれあい祭り

11月27日(日)のふれあい祭りには、約500名に及ぶ大勢の卒業生・地域の方々が来校されました。附属学園からも参加いただき、ありがとうございました。

「ふれあいイベント第1部」では、小学部と府中小学校4年生との合同合唱「マルマル・モリモリ」合同演奏「さんぽ」、中学部は「まあるいいのち」「ヤーレン！ソーラン・ロック」の合唱とダンス、高等部は雄大で勇ましい「獅子舞」を披露しました。

「ふれあいイベント第2部」では、各学部に分かれ、交流校や地域の方々、卒業生とふれあいながら、ゲーム大会やばら寿司づくりをして、楽しい一時を過ごしました。高等部は「まうんでんぴーち」という喫茶店を開き、注文を取って、手作りのケーキ等をふるまいました。

また、卒業生親の会や親和会の方々によるバザー、児童生徒の手作りの品、作業学習での制作品販売もあつという間に売り切れ、大盛況のうちに終わりました。

児童生徒にとって、たくさんの「ふれあい」のなかで、温かい絆を感じる有意義な一日となりました。



幼稚園

9月 お兄ちゃんお姉ちゃんと

運動会を終える頃、いろいろな場所で、黄・赤・青組の子どもたちの微笑ましい異年齢交流が見られます。一輪車に挑戦する黄・赤組さんに青組さんが乗り方を教えたり、サッカーと一緒にしたり、いつの間にか黄・赤組が青組の部屋にいて粘土と一緒にしていたり・・・



ほら見て！青組さんと一緒に踊ってるの

子どもたちはこのような異年齢交流を通して、人とのかかわり方を学んだり、遊びを広げていきます。

10月 地震避難訓練

思い思いに遊んでいる時に突然地震が・・・でも大丈夫。お部屋や園庭など、それぞれの場所で、机の下にもぐったり座って頭を守ったりと、地震時の対応ができました。その後、津波が来る想定で、小学校3階の音楽室に避難しました(耐震工事も終え、高く安全です)。青組は黄組の手を引き、赤組は赤組同士で手をつなぎ、全員が落ち着いて避難しました。



園庭の真ん中に集まって



小さな人と手をつないで小学校へ避難

編集後記

附属坂出学園合同の運動会や、それぞれの学園での文化祭など、2学期は日頃の学びの成果を披露する機会が多くありました。子どもたちは自分の力を発揮して取り組み、文字通り“実りの秋”となりました。また、1学期から始めている地震による津波発生を想定した環境の整備やマニュアル作成、避難訓練等の見直しもさらに進めているところです。

子どもたちが安全安心な環境の中で健やかに成長できるよう、今後とも職員一同力を尽くしていきたいと思っております。

今年も残すところあとわずかになりました。よい年をお迎えください。

発行年月日：2011年12月20日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

宮野 真也 樽本 導和 (附属坂出小学校)

寺岡 英郎 小林 理昭 (附属坂出中学校)

武田 光弘 尾崎 仁美 (附属特別支援学校)